

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	広島市立大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ヒロシマシリツダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	情報科学部・情報科学研究科
	担当教職員名・役職	井上 智生(教授)、松原 行宏(教授)、小林 康秀(教授)、式田 光宏(教授)、前田 香織(教授)、日浦 慎作(教授)、藤坂 尚登(教授)、鷹野 優(教授)
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	12
	受入企業等数	86
	受入企業等名	(株)TSSソフトウェア、(株)ヒューマンシステム、マツダ(株)、(株)広島情報システム、(株)インターフェイス、(株)中国新聞システム開発、デンソーテクノ(株)、日本電気(株) ほか
	インターンシップの分類	6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ、7.中小企業でのインターンシップ、8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事、2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
要素②	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	アプリケーションの作成工程において、要件定義書を基に機能検討し、基本設計書を基にした詳細設計書の作成及び単体テストを行った。(システム開発)
	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している、6.当該インターンシップは、選択科目として実施している、8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
要素③	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	産学連携による創造的人材の育成を目指し、学生が企業や公的機関において実習、研修を行い、実社会と直接係る就業体験、また具体的な現実の問題への取り組みを経験する。実習期間は2週間程度である。インターンシップ終了後は、参加者全員による報告会を行い、実習の内容、社会で求められている技術や能力についてまとめる。
	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている、2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている、3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている、4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている、2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている、3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	インターンシップ終了後ではあるが、指導教員が企業を訪問し、参加学生の実習態度など詳細についての聴き取りを行っている。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップの趣旨や目的、準備等の理解のための研修(1回)と、インターンシップ参加にあたっての社会人マナー講座(1回)を実施している。また、チューターが個別に研修を行っている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	企業担当者からの助言(日報など)を基に振り返りを行い、活動の成果を報告書にまとめるとともに、自身の課題を明確にし今後の目標を立てる。その内容を学内での報告会でパワーポイントにより発表している。
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ終了後、指導教員がお礼を兼ねて企業を訪問し、参加学生について、実習態度、実習能力、その他気づき等の詳細について直接企業担当者から聴き取りを行い、学生の指導に役立っている。	
要素	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	

④	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ参加前に動機、目標等を明確にするための応募票を提出させ、参加後に、企業担当者からの助言や研修成果を報告書として提出させている。また、その内容を報告会でパワーポイントにより発表させている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	10日間～20日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	(株)TSSソフトウェア、(株)ヒューマンシステム、マツダ(株)、(株)広島情報システム、(株)インタフェース、(株)中国新聞システム開発、デンソーテクノ(株)、日本電気(株)において10日間以上のインターンシップを行っている。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受入れ企業に対して、活動記録簿(日報)を記入し、実習内容や助言を記入してもらうよう依頼している。終了後には企業に対して、教員による聴き取り訪問やアンケートを行っている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	(29年度) <a href="http://www.hiroshima-cu.ac.jp/">http://www.hiroshima-cu.ac.jp/</a>
問い合わせ先	大学等名	広島市立大学
	担当部署名	キャリアセンター
	担当者役職名	主査
	担当者氏名	廣中 哲雄
	電話番号	082-830-1663
	メールアドレス	career@office.hiroshima-cu.ac.jp